

授業科目名	看護学概論	講師名	伊藤 照美
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
<p>学修目標</p> <p>1. 看護学を構成している要素を学び、看護の概念と看護の目的を理解し、看護の基礎知識を身につける。</p> <p>2. 看護師としての倫理的な考えや判断ができる能力・態度を養う。</p>			
<p>内容</p> <p>1. 看護の本質とは(看護の歴史の変遷)</p> <p>2. 看護の本質とは(看護理論)</p> <p>3. 看護の対象(人間の特徴)</p> <p>4. 看護の対象(健康の概念)</p> <p>5. 看護の対象(対象の多様性)</p> <p>6. 保健・医療・福祉における看護(理念)</p> <p>7. 保健・医療・福祉における看護(連携と協働)</p>		<p>8. 保健・医療・福祉における看護(合同演習)</p> <p>9. 看護実践の社会心理的理解</p> <p>10. 看護実践の基礎(看護技術)</p> <p>11. 看護実践の基礎(倫理・法・医療安全)</p> <p>12. 看護の展開</p> <p>13. 専門性への道程</p> <p>14. 看護・看護学の展望</p> <p>15. 筆記試験</p>	
教科書 看護学概論(医学書院)			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 60分 80点、レポート 20点	
<p>その他の事項[実務経験のある教員による授業科目]</p> <p>看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が看護学概論の授業を行う。</p>			

授業科目名	看護技術論	講師名	大西 美穂
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
<p>学修目標</p> <p>1. 看護技術を看護実践のなかで活用することの意味と、看護実践の基盤となる考え方について学ぶ。</p> <p>2. 看護技術の特徴を知る。</p> <p>3. 看護技術を適切に実践するための条件を理解する。</p> <p>4. 感染防止の基礎知識を理解し、施設内で発生する院内感染を防止するための技術を習得する。</p> <p>5. 看護におけるコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度を習得する。</p>			
<p>内容</p> <p>1. 看護技術の定義を理解する。</p> <p>2. 看護技術の基本原則を理解する。</p> <p>3. 看護場面における安全を脅かす要因について理解する</p> <p>4. 感染防止の基礎知識</p> <p>5. 標準予防策(スタンダードプリコーション)</p> <p>(1) 手指衛生・・・☆</p> <p>(2) 個人防護用具・・・●△</p> <p>6. 感染経路別予防策</p> <p>7. 洗浄・消毒・滅菌</p>		<p>8. 無菌操作・・・●</p> <p>9. 感染性廃棄物の取り扱い</p> <p>10. 看護におけるコミュニケーションの意義を理解する。</p> <p>11. コミュニケーションの構成要素</p> <p>12. 人間関係とコミュニケーション</p> <p>13. 効果的なコミュニケーションのための</p> <p>14. コミュニケーション障害への対応</p> <p>15. 筆記試験</p>	
教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院) 基礎・臨床看護技術(医学書院)			
授業の形態・方法 講義、演習、実技		評価方法 筆記試験 60分 80点 実技レポート含む 20点	
<p>その他の事項[実務経験のある教員による授業科目]</p> <p>看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が看護技術論の授業を行う。</p>			

授業科目名	生活援助技術Ⅰ	講師名	坂中 麻紀
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 人間にとっての環境の意味を理解し、生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する。 2. 活動・休息の意味を理解し、基本的活動と睡眠の基礎知識と必要な援助方法を習得する。			
内容 1. 人間にとっての環境の意味を理解する。 2. 看護援助における環境のとらえ方の視点を理解する。 3. 室内の環境条件を理解する。 4. 生活環境を整えるための技術を習得する。 5. ベッド周囲の環境調整・・・● 6. ベッドメイキング・・・☆ 7. 身体を動かす、保持することの生理的・精神的意義を理解する。 8. ボディメカニクスの原理を活用することによる効果を理解する。 9. 安全・安楽な体位変換・保持、移動の技術を習得する。		10. ボディメカニクス・・・● 11. 体位変換・・・● 12. 移動・・・● 13. 移乗・移送・・・● 14. 睡眠のメカニズムの理解と、障害についてのアセスメントを学び、必要な援助方法を理解する。 15. 筆記試験	
教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院) 基礎・臨床看護技術(医学書院)			
授業の形態・方法 講義、演習、実技		評価方法 筆記試験 60分 80点 実技レポート含む 20点	
その他の事項 [実務経験のある教員による授業科目] 看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が生活援助技術Ⅰの授業を行う。			

授業科目名	生活援助技術Ⅱ	講師名	中務 優子
実施年次・時期	1年次 前期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 日常生活への看護を学び、その技術を習得することができる。			
内容 1～6. 身体を清潔に保つ技術について理解する (1) 入浴・シャワー浴 (2) 全身清拭・・・☆ (3) 洗髪・・・● (4) 手浴 (5) 足浴とフットケア・・・● (6) 陰部洗浄・・・● (7) 洗面 (8) 眼・耳・鼻の清潔 (9) 整容 (10) 口腔ケア・・・●		7. 衣生活への看護の技術を習得する。 8. 食生活への看護の技術を習得する。 9. 食事介助・・・● 10. 摂食・嚥下訓練、非経口栄養摂取の援助(経管栄養法・中心静脈栄養法) 11. 排泄への看護の技術を学ぶ。 12. 床上排泄援助・・・● おむつによる排泄援助・・・● 13. 導尿 14. 排便を促す援助(浣腸、摘便) 15. 筆記試験	
教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院) 基礎・臨床看護技術(医学書院)			
授業の形態・方法 講義、演習、実技		評価方法 筆記試験 60分 80点、実技レポート含む 20点	
その他の事項 [実務経験のある教員による授業科目] 看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が生活援助技術Ⅱの授業を行う。			

授業科目名	ヘルスアセスメント技術	講師名	坂中 麻紀
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
<b>学修目標</b> 1. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法について習得する。 2. 身体各部の形態や、身体機能を正しく計測し評価することができる。 3. フィジカルアセスメントの概念と技術を学び、それによって得られる客観的データについて理解することができる。			
<b>内容</b> 1～3. 呼吸・循環・体温の観察ポイントを理解し、正確に測定する技術を習得する。 (1) 脈拍・・・☆、(2) 呼吸・・・☆ (3) 体温・・・☆ (4) 血圧・・・☆ (5) 意識レベル 4～5. スクリーニングの技術 (1) 全身の観察 (2) 自覚症状と精神・身体機能の把握 (3) 身体計測 (4) 身長・体重・腹囲・・・●		6～10. フィジカルアセスメント技術の具体的方法と留意点について理解する。 (1) 全身状態 (2) フィジカルアセスメントの準備 (3) 問診、視診、触診、打診、聴診 11～12. 系統別解剖学的構造の理解とアセスメント 13. ケースを用いたフィジカルアセスメント 14. ケースを用いたフィジカルアセスメント 15. 筆記試験	
教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、臨床看護総論(医学書院) 基礎・臨床看護技術(医学書院)			
授業の形態・方法 講義、演習、実技		評価方法 筆記試験 60分 80点、実技レポート含む 20点	
<b>その他の事項</b> [実務経験のある教員による授業科目] 看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員がヘルスアセスメント技術の授業を行う。			

授業科目名	診療補助技術	講師名	坂中 麻紀
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
<b>学修目標</b> 1. 検査・治療・処置における看護について学び、その技術を習得することができる。			
<b>内容</b> 1～4. 検査時の介助技術について理解する。 1) 採血 (1) 注射器を用いた静脈血の採血・・・● (2) 真空採血管を用いた静脈血の採血 (3) 血糖測定・・・● 2) 心電図検査の基礎知識・・・● 5. 医療機器の原理と実際について理解する。 1) 医療機器を使用する環境 2) 人工呼吸器、除細動 6～8. 治療・処置の介助 1) 創傷管理 (1) 創傷処置・・・△ (2) 褥瘡処置・・・△ 2) 侵襲的処置と看護(1) 穿刺・洗浄の介助 3) 輸液療法 4) 化学療法 5) 放射線療法 6) 集中治療		9～14. 与薬と注射についてと与薬の実際 (1) 経口与薬 (2) 吸入・・・△ (3) 点眼・・・△ (4) 点鼻・・・△ (5) 経皮的与薬 (6) 直腸内与薬・・・△ (7) 注射 皮下注射・・・● 皮内注射・・・△ 筋肉内注射・・・● 静脈内注射 ワンショット・・・△ 点滴静脈内注射・・・● 輸液・シリンジポンプを用いた輸液・・・● 15. 筆記試験	
教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、臨床看護総論(医学書院) 基礎・臨床看護技術(医学書院)			
授業の形態・方法 講義、演習、実技		評価方法 筆記試験 60分 80点、実技レポート含む 20点	
<b>その他の事項</b> [実務経験のある教員による授業科目] 看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が診療補助技術の授業を行う。			

授業科目名	臨床看護総論	講師名	中務 優子
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 健康障害の各期の特徴を理解し、援助方法を修得する。 2. 主要な症状を示す対象者への援助について理解する。			
内容 1. ライフサイクルと発達段階、健康の維持・増進の看護 2. 急性期における看護 3. 慢性期における看護 4. リハビリテーション期における看護 身体可動運動・・・● 5. 終末期における看護 ・死後のケア・・・△ 6～8. 呼吸・循環機能障害の援助 ①酸素吸入療法 酸素ポンベの取り扱い・・・● ②吸引 一時的吸引(口腔・鼻腔・気管)・・・● 持続的吸引(胸腔ドレナージ) ③排痰ケア ④末梢循環促進ケア ⑤体温管理の技術 ⑥発熱時の援助 ⑦うつ熱時の援助(熱中症の場合) ⑧罨法 温罨法・冷罨法・・・●		9～12. 排泄機能障害 ①導尿 一時的導尿・・・● 持続的導尿・・・● ②排便を促す援助 ・浣腸・・・● 摘便 13. 栄養・代謝障害 (1) 経管栄養法・・・● (2) 中心静脈栄養法 14. 活動・休息(不活動・睡眠)障害 認知・知覚障害 コーピングに関連する症状 安全・生体防御に関する症状 15. 筆記試験	
教科書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、臨床看護総論(医学書院) 基礎・臨床看護技術(医学書院)			
授業の形態・方法 講義、演習、実技		評価方法 筆記試験 60分 80点、実技レポート含む 20点	
その他の事項 [実務経験のある教員による授業科目] 看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が臨床看護総論の授業を行う。			

授業科目名	看護過程展開技術Ⅰ	講師名	大西 美穂
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 看護過程の展開の技術を理解することができる。			
内容 1. 記録と倫理 2. 看護記録 3. 報告 4. カンファレンス 5. カンファレンス(演習)		6. 学習支援 7. 看護における安全・安楽・個別性 8～11. 事例展開 12～13. 演習(事例を用いて) 14. 評価 15. 筆記試験	
教科書 看護学概論、基礎看護技術Ⅰ(医学書院)			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 50分 60点、レポート 40点	
その他の事項 [実務経験のある教員による授業科目] 看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が看護過程展開技術Ⅰの授業を行う。			

授業科目名	看護過程展開技術Ⅱ	講師名	大西 美穂
実施年次・時期	1年次 後期	時間数(単位)	1単位 30時間
学修目標 1. 看護過程の展開の技術を活用し、紙上事例を用いて展開する。			
内容 1. 看護過程とは 2. NANDA とは、NANDA の概念枠組み 3. 情報収集 4. アセスメント 5. 関連図、看護問題の明確化		6. 看護計画 7. 実施と評価 8～12. 事例を用いての看護展開 13～14. グループワーク 15. 筆記試験	
教科書 基礎看護技術Ⅰ(医学書院)、NANDA看護診断ブック			
授業の形態・方法 講義、演習		評価方法 筆記試験 60分50点、課題レポート50点	
その他の事項 [実務経験のある教員による授業科目] 看護師を取得後5年以上の看護業務実務経験がある教員が看護過程展開技術Ⅱの授業を行う。			